

関宿 Visitor Information

2015.04.01

関宿滑空場は複数の社会人グライダークラブで構成する「NPO 関宿滑空場」という団体で運営されている民間の機関です。

ロケーションは千葉県野田市平井 123 の江戸川河川敷に敷設されています。

関東平野内の滑空場のなかでも最も東京都心から近い 40km に位置し、一都五県から会員が集まり、主に週末活動しています。

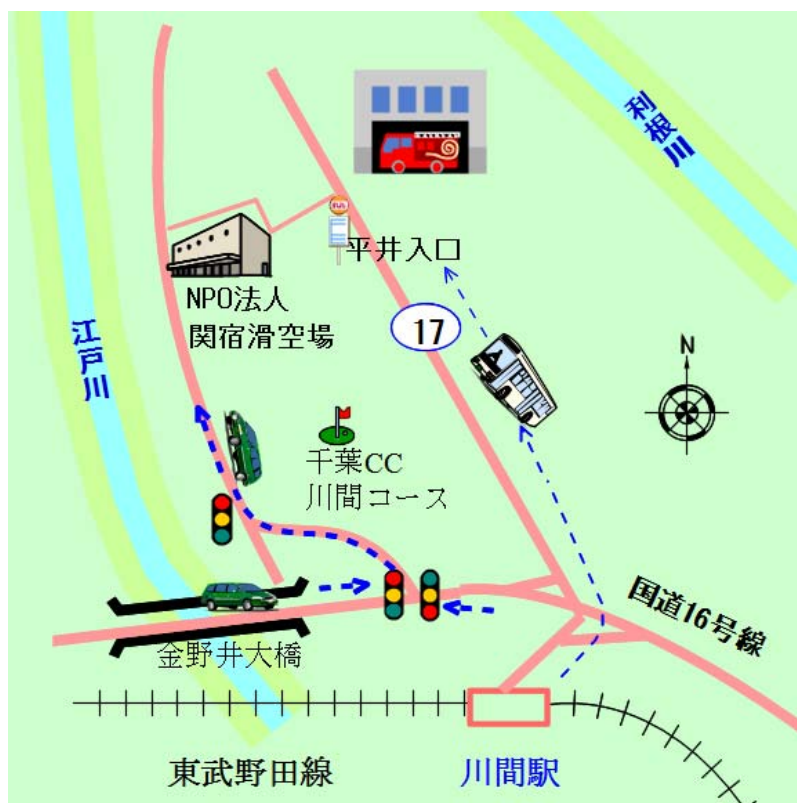


＜交通＞

最寄りの鉄道は東武野田線川間駅。朝日バスで平井入口下車。徒歩約 5 分です。

消防署(野田市消防署関宿分署)の前の西側の路地を西へ向かって行けば格納庫が見えてきます。

川間駅南口より野田市豆バスを利用して、関宿滑空場入口で下車も可能ですが、豆バスは土曜、休日運休です。



朝日バス時刻表 URL:

<http://www.bus-ibaraki.jp/jikoku-shitetsu/kawama.html>

Google Map では「NPO 法人関宿滑空場」で検索してください。

<https://www.google.co.jp/maps/@36.0189232,139.8184672,18z?hl=ja>

クルマ:

国道 16 号線から：

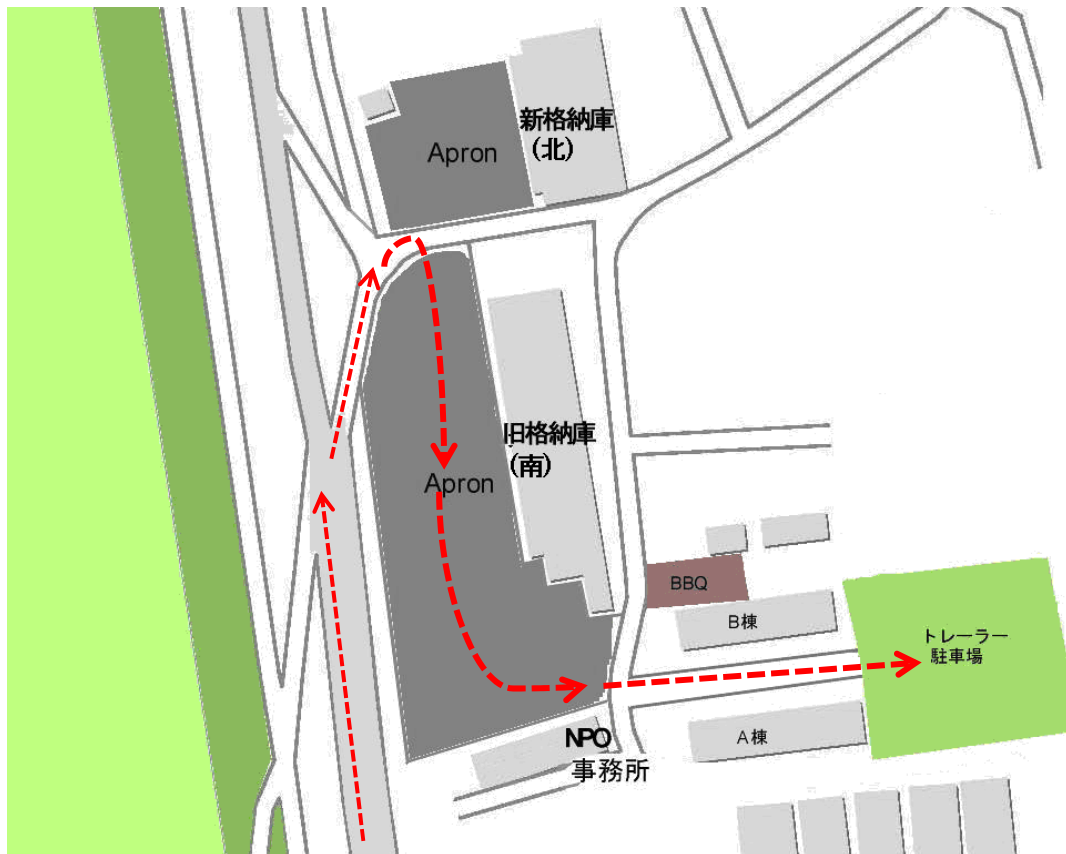
野田市「東金野井」または「中里」交差点から北上します。(前図参照)

トレーラーを引いているクルマは東金野井の信号を北に道なりに進み、土手にぶつかる信号を右折、江戸川土手道へ進んでください。(猛スピードのクルマによる事故多し!ご注意!)

北上 2.5km で右側に格納庫が見えてきます。

土手道から直接河川敷には曲がれません。必ず格納庫の方へ降りてください。

トレーラーも単独のクルマも一旦滑空場敷地、東奥のトレーラー駐車場に停めてください。

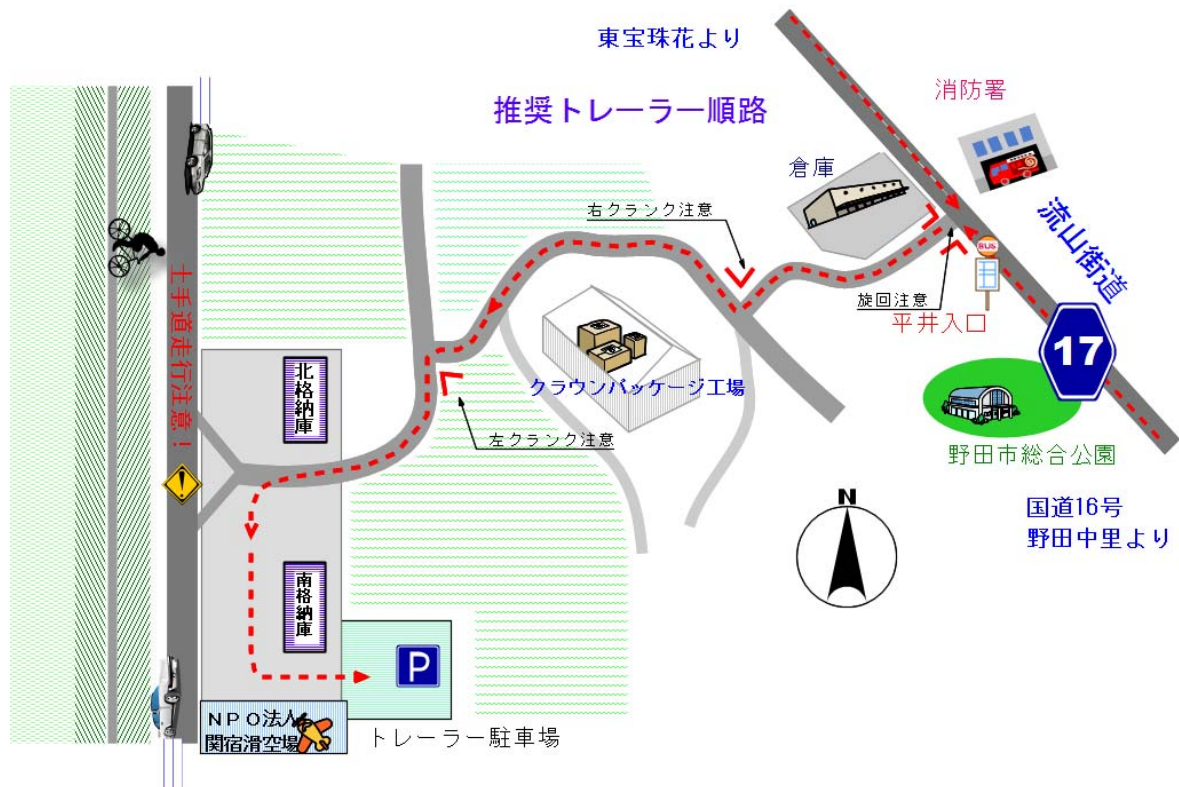


県道 17 号から:

宝珠花方向からは県道 17 号線を南へ、国道 16 号線「野田市中里」からは立体交差の側道から北上し消防署前の平井入口から入り西向きに進んでください。

(特に複座機の大型の) トレーラーはクランクした道での内輪と尾部のスイングに注意してください。

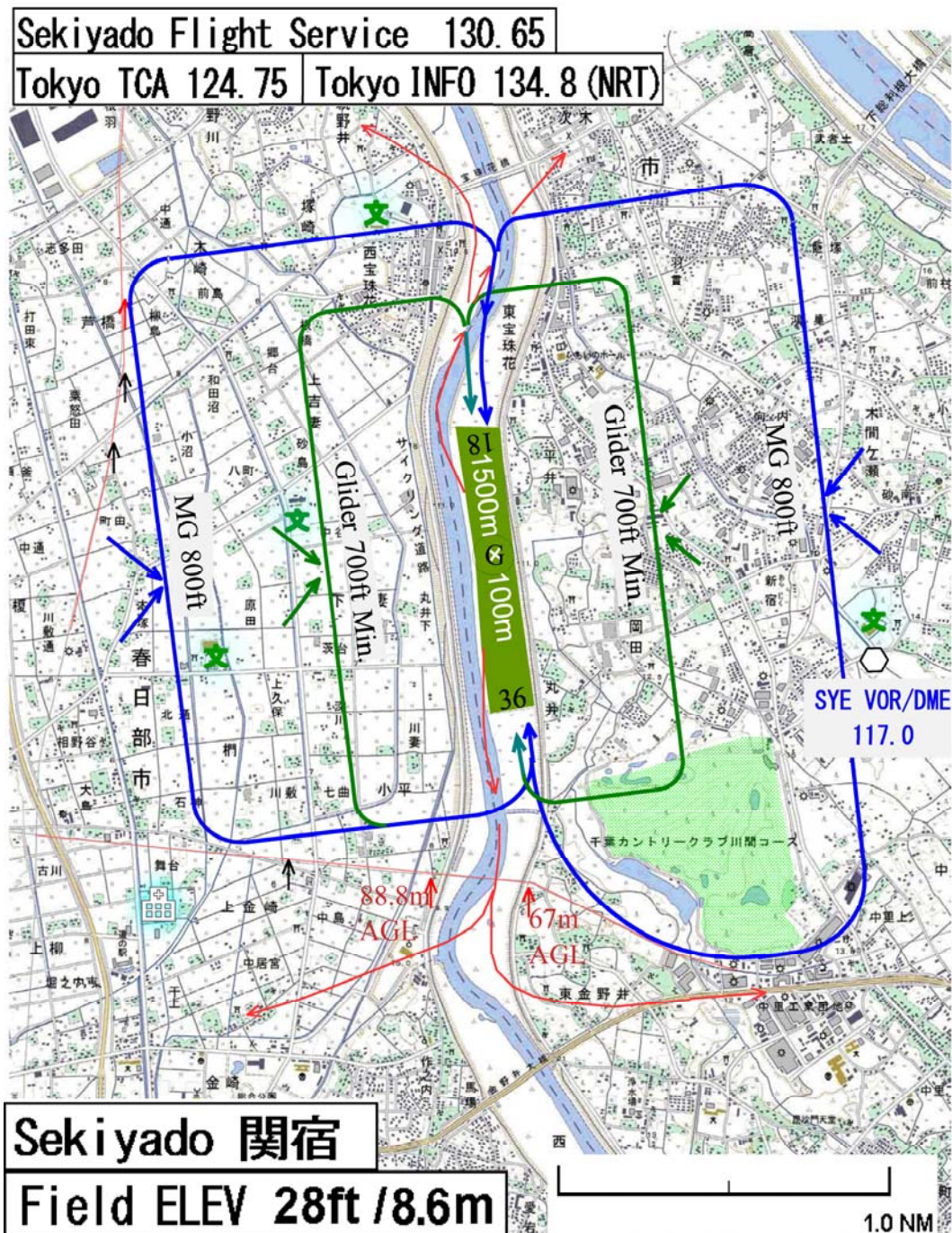
トレーラーも単独のクルマも一旦下図の滑空場敷地内、東奥のトレーラー駐車場に停めて NPO の指示を受けてください。



この県道 17 号～平井入口経由は、トレーラーを引いている場合、消防署前の入口に入るとき大きな旋回が必要で、交通量が多いため一人のドライバーでは進入のタイミング判断が極めて難しく、補助員が必要です。進入後もクランクがきついで慣れていないグループは補助員が監視しながら通行してください。

周辺に慣れていないグループには 前ページの国道 16 号から土手道の方がクランクがゆるやかなので推奨されます。

フライト・パターン:



滑走路方向は RWY36-RWY18 で、使用方向によって Downwind を Left DW, Right DW と区別しています。

モーター・グライダー(MG)は 800feet 1NM(1.8km)幅、グライダーは 700feet 以上で 0.5NM(1km)幅 DW に Entry してください。

パターン上空を 1,000ft 以下で通過する場合は 周辺機との安全のため FS の許可を得てください。

図のように高圧線が南側と西側にありますので、400ft 以下の低高度では絶対通過しないよう注意が必要です。

5 月連休には、宝珠花橋の南河川敷と西岸土手で大風大会が催され、Base Leg を北側にふくらませないよう注意が必要です。

また通常でも宝珠花橋より北側は明治大学の宝珠花滑空場の機体が飛行しており、北へオーバーシュートしないよう注意してください。

南側の高圧線は RWY36 の場合、特に警戒が必要です。よく目視で監視して決して上空を通過しないよう注意してください。



騒音対策:

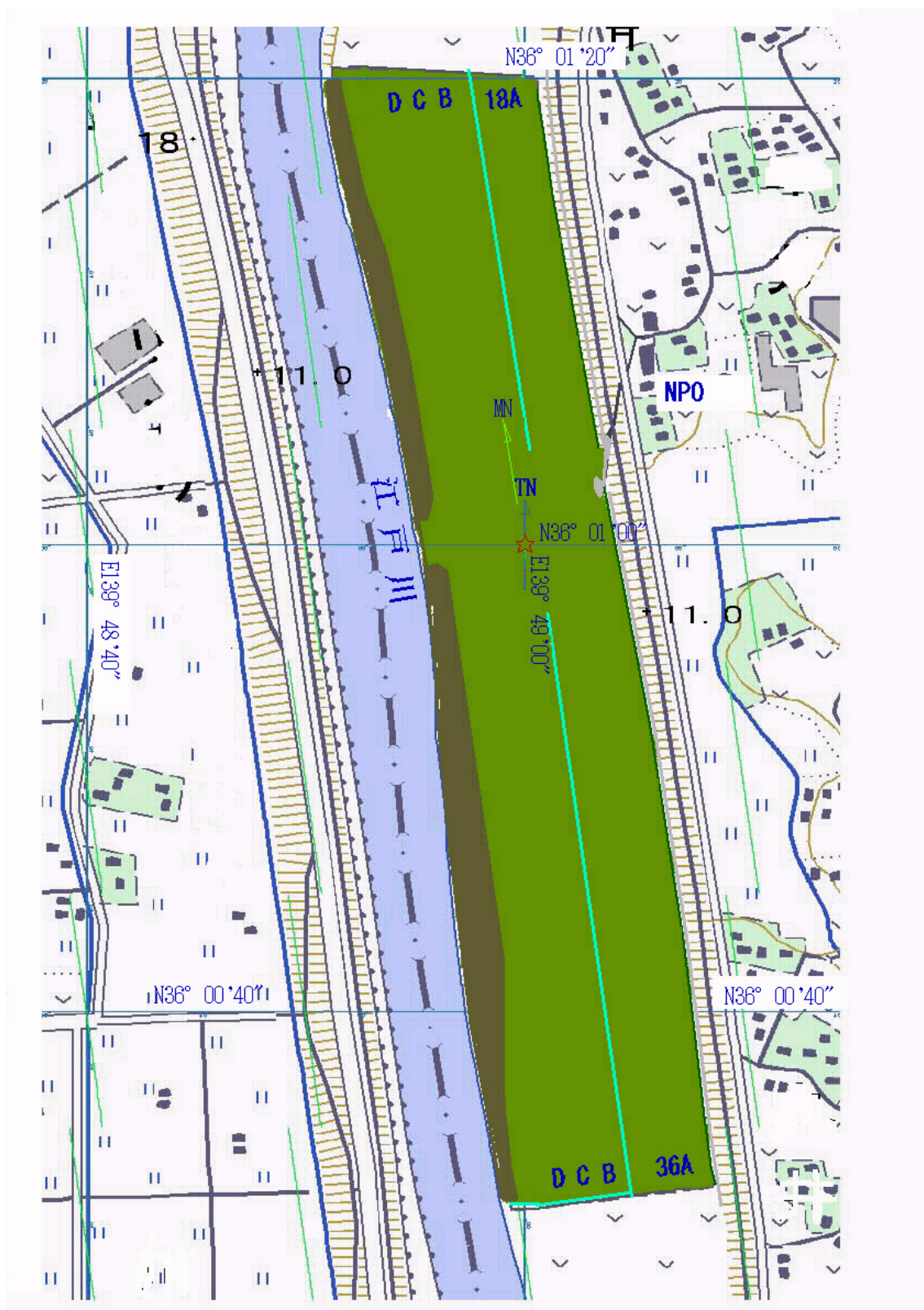
パワー機の出発は離陸して安定したら、騒音対策のため川側へ浅い旋回をして、江戸川水面上空をたどって 500ft 以上獲得するまで市街地方向への旋回を避けてください。

この時、後方の安全に注意して旋回しますが FS には Call を入れる必要はありません。

特に RWY D でウィンチを運用している時には索が空中に無いことを確認して旋回開始してください。

「タッチアンド・ゴーについて最大連続 5 回まで」と自粛しています。

また「上昇中のエンジン騒音は、極力集中しないよう拡散に務め、繰り返し同じコースを飛行しないよう配慮」をおねがいします。



滑空場全体図



RWY 18 Left Base Leg 土手のすぐ右に RWY 18A(アルファ), 黒く見える水溝があり、
B, C, D の RWY 右手下方、後方が、大風会場。



RWY 36C へ向かう 第 4 旋回。左が江戸川。

滑走路使用方法

関宿の滑走路利用方法は RWY が複数あるので難しく、事故防止に最大限注意をはらってください。通常の運用の基本形は以下。

飛行機曳航の離陸 B 発航

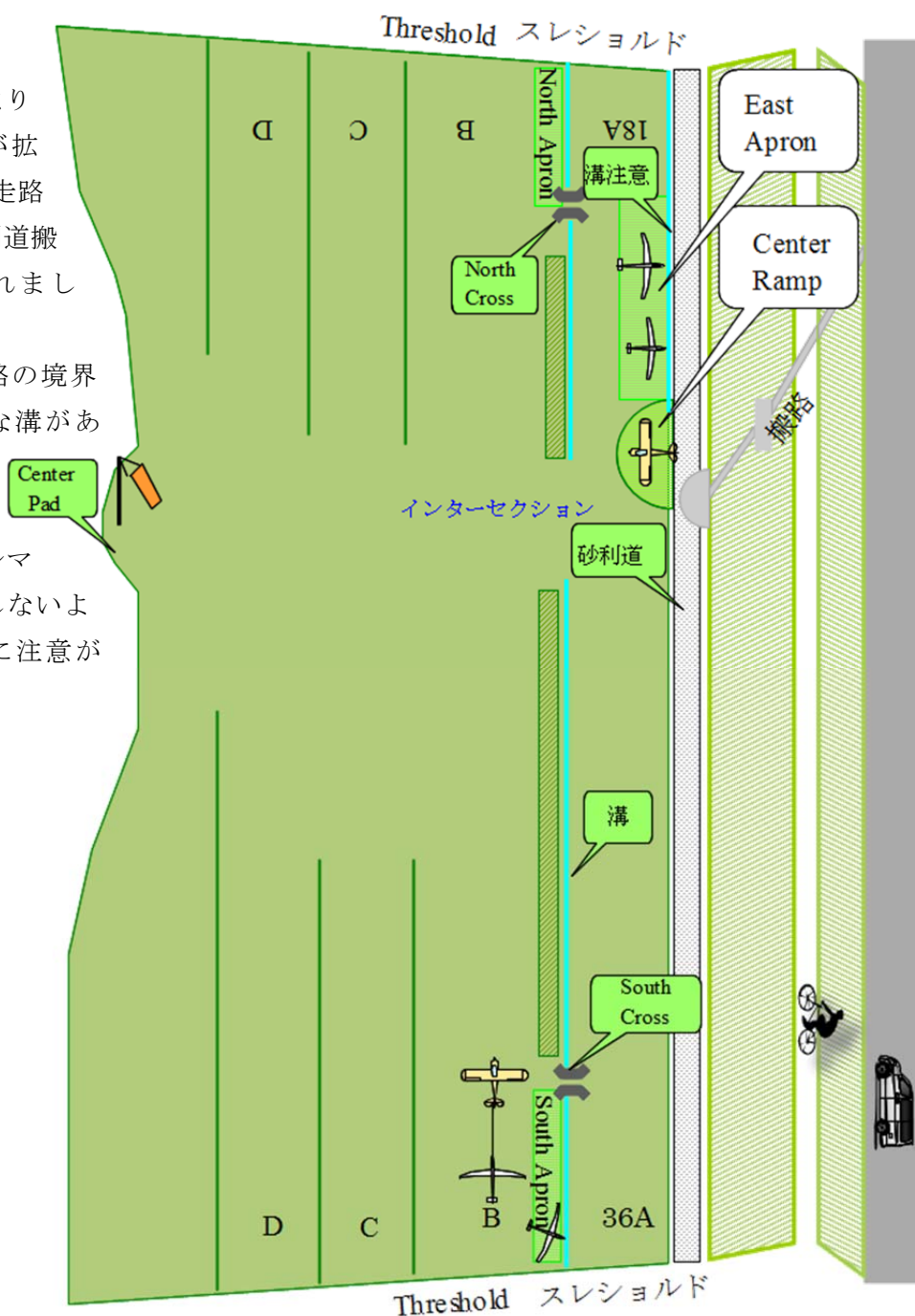
グライダー、曳航機の着陸 . . . C, D 着陸

MG 機の離着陸 A 離着陸

発航滑走路は路面の状態により変更する場合があります。

2015 年 4 月より
江戸川堤防が拡張され A 滑走路
の東側に砂利道搬路が整備されました。
搬路と滑走路の境界に図のような溝があります。

航空機、クルマ
ともに落下しないよう地上運行に注意が必要です。



機体の リトリート基本パターン

グライダーのリトリートの基本パターン第一義的には B ショルダー経由です。

FS が指定して Back Track RWY D, B を Towing 許可する場合がありますが基本的に Active 滑走路を着陸機のために空けておくように注意してください。

着陸直後 FSが指定するので 複座機の教官はよく聴取して Crewに伝えて指示を出してください。

特に強風下でのリトリートは注意力が低下するうえ、無線機、メガホンによる音声での指示が聞こえないので、タワー車を注視しながら運用してください。

FS の指示の意味が分からない時は「**まず停止**」です。

滑走路を横断する時は、無線機の音声に耳をすまし、進入機や曳航離陸機が居ないか目視で確認して横断してください。

